

斜里・羅臼町における人とヒグマの軋轢について

1. ヒグマに関わる人身事故・危険事例

- ・ 1970-2009年の40年間で、死亡2件、負傷2件、計4件の人身事故。このうち3件は狩猟者。
- ・ 1986年を最後に両町でのヒグマによる人身事故は発生していない。
- ・ 人身事故につながりかねない危険事例は、2005-2009年の5年間ですくなくとも22件（斜里・羅臼町の合計、ウトロ市街地への出沒は除く）。
- ・ 北海道内では2005年から2009年の5年間で、6名がヒグマによる人身事故で死亡、10名が負傷。突出して多い斜里・羅臼両町を目撃件数を考慮すると、両町における人身事故の発生件数は低く抑えられている。

表1. ヒグマによる人身事例および危険事例（斜里町・羅臼町）

（死亡事故、負傷事故は1970年から2010年までの40年間を集計。その他の危険な事例は2005年から2009年までの5年間を集計）

	斜里町	羅臼
死亡事故	1件。 狩猟者が逆襲されて死亡（1974年、越川）。	1件。 狩猟者が逆襲されて死亡（1985年、海岸町）。
負傷事故	1件。 ふ化場職員が負傷（1986年、岩尾別）。	1件。 狩猟者が逆襲されて負傷（1980年、春日町）。
その他の危険事例	器物破損1件 遊歩道上（1）2件 登山道2件 バックカントリー1件（2） サケマス釣り場1件 ウトロ市街地への出沒多数（3）	器物破損6件 バックカントリー2件（2） キャンプ場2件 羅臼市街地中心部への出沒5件

1：遊歩道はフレペの滝遊歩道と知床五湖遊歩道を指す。

2：バックカントリーはシーカヤック、海岸トレッキングなどを指す。

3：ウトロ市街地への出沒についてはP8参照。

表2. 斜里・羅臼両町におけるヒグマによる危険事例（一部抜粋）

年月日	区分	場所	状況
2005年9月6日-10日	斜	知床連山登山道	3組の登山者が連日硫黄山登山道にてヒグマと遭遇。うち1件は5分間ほどヒグマに追跡されたため、クマスプレーを噴射。
2006年9月7日	斜	幌別川河口	幌別川河口に出没した単独亜成獣ヒグマが釣り人に接近、荷物を持ち去る。その後、花火弾による追い払いを実施し、持ち去られた荷物を回収。荷物は開けられ、なかのパンが食べられていた。
2006年8月26日	斜	フレベの滝遊歩道	ヒグマと遭遇した一般観光客が走って逃げたところ、これに反応したヒグマが追いかけた。ヒグマは途中で追跡をやめ、引き返す。
2006年8月28日	斜	半島斜里側エタシベウニ湾	知床半島西岸のイダシュベツ川河口から約1kmほど南西のエタシベウニの湾にて幕営していたシーカヤッカーのテントにヒグマが近づき、テントにのしかかる。被害はなし。
2007年6月23日	斜	知床五湖遊歩道	1-2湖周回路を散策中の一般観光客が1歳2頭連れヒグマ親子と3mの距離で遭遇。近くにいた団体観光客が騒ぎ、親グマが何度か威嚇行動を示した。
2008年7月12日	斜	知床連山羅臼岳登山道	オホーツク岩峰付近で3名の登山者が親子ヒグマに距離約5mで遭遇。母グマより威嚇突進を受け、驚いた先頭の男性が転倒。その後、母グマは転倒した男性に対し、数回の突進と後退を繰り返した。男性は、この間、持っていた登山用のストックを前に突き出しながらクマと応戦した。
2008年7月20日	羅	羅臼温泉野営場	キャンプ場内にシカを追うようにして単独ヒグマが侵入、テント周囲の匂いを嗅いだ後立ち上がってテントにのしかかった。前肢の爪によってフライシートが約50cmにわたって破られた。この時テント内には人がおり、家族のいたずらと勘違いして足で蹴ったところ、ヒグマは逃げ去った。
2008年7月21日	羅	羅臼町海岸町	夜間に住宅地を徘徊し、塩マスを保管していた倉庫の扉を破った。その後付近の住宅の勝手口や窓、倉庫扉が夜間クマに破られる被害が、8/15に加害グマが箱ワナで捕獲されるまで続いた。
2009年3月11日	斜	ウトロ市街地周辺	単独ヒグマが漬物を保管する民家の物置のガラス戸を破り、内部を物色。
2009年7月31日	羅	知床横断道路知床峠	知床峠に駐車し、羅臼湖入口へ向かって横断道路を歩き始めたトレッカーが路上で単独ヒグマと遭遇。繰り返し接近された。最接近時の距離は約1m。
2009年9月25日	羅	知床岬トレッキングルート念仏岩洞窟内	知床岬を目指すトレッカーが、幕営していた念仏岩にテントと食料を残置して知床岬まで往復したところ、その間にフードコンテナに入れていなかった食料をヒグマに荒らされた。

2. 斜里・羅臼町のヒグマによる経済被害（農業・漁業など）

< 農業・酪農・畜産 >

- ・ 斜里町ではヒグマによる農業被害が発生。被害が発生するのはおもにビートと小麦。酪農・畜産に対する直接的な経済被害は確認されていない。
- ・ 2001-2009年の9年間で、斜里町におけるヒグマによる農業被害金額は228-2431万円、農業被害面積242-2475アール（金額と面積は農家による自己申告）。
- ・ ヒグマによる農業被害は、ウトロ高原と基部（日の出・峰浜・朱円東など）の山際の農地で発生。
- ・ 羅臼町は畑作農家不在、基部の峯浜地区に酪農家が数軒あるのみ。ヒグマによる農業・酪農・畜産に対する直接的な経済被害は確認されていない。

< 漁業 >

- ・ 斜里・羅臼両町ともに被害金額に関する情報はなし。
- ・ 斜里町の漁業者から、定置網にヒグマが泳いでいき網の中の魚を食べたり逃がしてしまったりして困るという報告あり。
- ・ 先端部に番屋を構える漁業者（斜里・羅臼町）から、番屋周辺に頻繁にヒグマが出て作業が遅れて困るといった報告あり。羅臼町の昆布漁番屋では夜間の屋外作業もあることから、ヒグマの出没は漁業者に大きなストレスを与えている。
- ・ 国立公園内については、番屋など施設内への侵入事例は、2002年を最後に確認されていない。国立公園外については、2005年12月にキキリベツの番屋にヒグマが侵入したのが最近の事例。

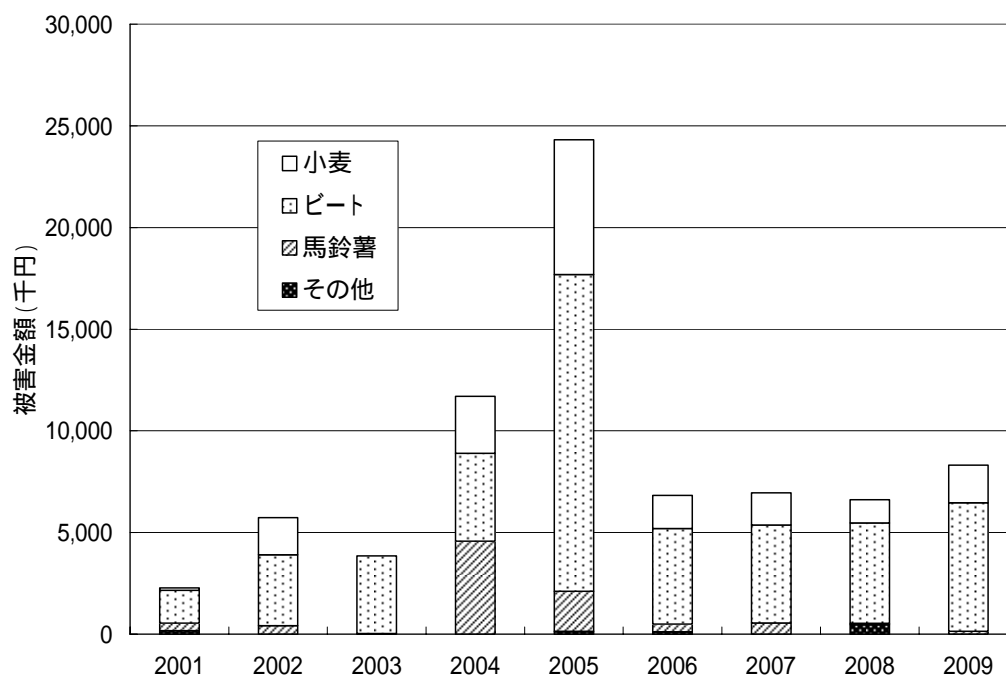


図1. 斜里町におけるヒグマによる農業被害金額

表 3 . 知床国立公園におけるヒグマによる漁業番屋への被害発生状況 (1993 ~ 2009 年)

凡例 A : 施設内侵入・破損 B : 漁獲物食害 C : 飼い犬殺傷

地 域	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	計
斜 里 町 (半島西岸)	文吉湾	-	-	A*1	A*2	-	B*1	-	-	A*1, B*1	-	-	-	-	-	-	-	6
	ホ口モイ	-	A*1	A*1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B*1	-	3
	イタシュベウタラ	-	-	A*1	A*2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	レタワタラ	A*1	A*1	A*3	A*2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
	滝ノ下	-	-	-	-	-	B*1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B*1	2
	ルシャ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
羅 臼 町 (半島東岸)	赤 岩	-	-	-	-	-	-	-	C*1	A*1	-	-	-	-	-	C*1	-	3
	ニカリウス	-	-	-	A*5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	滝ノ下	-	-	-	A*2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	モイレウシ・ベキン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	中番屋	-	-	-	-	-	A*1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	崩 浜	-	-	-	C*1	-	A*2, B*3	B*1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
年間被害件数	1	2	6	14	0	8	2	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0	39

< その他の産業 >

- ・ 羅臼町では一部の水産加工場における残渣の管理状況が十分ではなく、ヒグマによる残渣の食害や従業員との夜間遭遇、それに伴う作業の遅れなどあり。
- ・ 羅臼町内のふ化場 2 ヲ所毎毎年秋に採卵用親魚の食害が発生していたが、うち 1 ヲ所では 2008 年に電気柵導入、その後は被害報告なし。

3. 観光・生活に関する軌轍（遊歩道・登山道・住宅地）

a) 知床五湖遊歩道

- ・ 知床五湖園地の開園期間は4月下旬～11月下旬まで、214日間前後。
- ・ ヒグマ出没等の状況によって遊歩道の一部もしくは全面を閉鎖する（図2）。
2005-2009年の5年間で、全面閉鎖日数は6-40日/年、3-5湖閉鎖日数は45-128日/年（ただし、3-5湖閉鎖日数には、残雪による遊歩道未整備や電気柵を設置したことによる閉鎖日数も含む）。
- ・ 例年、電気柵はヒグマの活動が活発化する時期（6～8月の間）に、1-2湖周回路への侵入を防止する目的で設置する（図3）。設置時には3-5湖周回路を閉鎖する。
- ・ 高架木道閉鎖は原則なし。

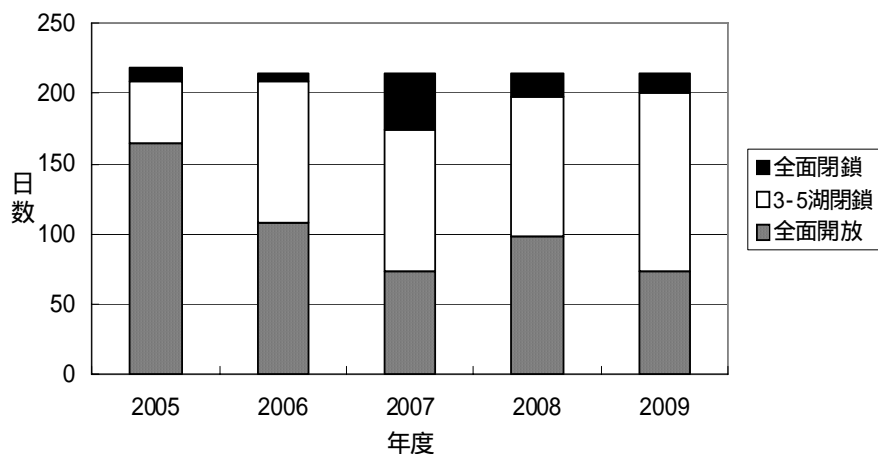


図2. 知床五湖遊歩道開放・閉鎖状況（2005～2009年度）

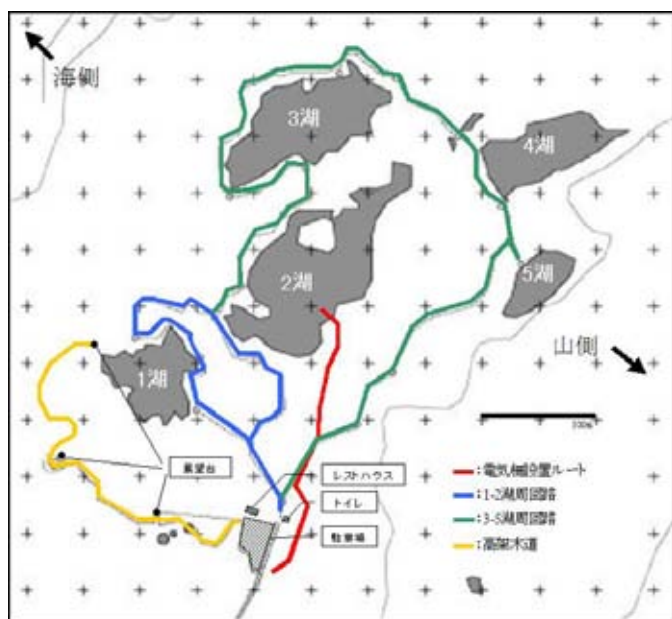


図3. 知床五湖地区における電気柵の設置状況（250mメッシュ）

b) フレペの滝遊歩道

- ・ フレペの滝遊歩道は基本的に通年利用可能。
- ・ ヒグマの目撃件数は過去5年間で44～119件/年(図4)。
- ・ ヒグマの出没状況に応じて遊歩道を緊急的に閉鎖。過去5年間で閉鎖回数は4～23回/年。

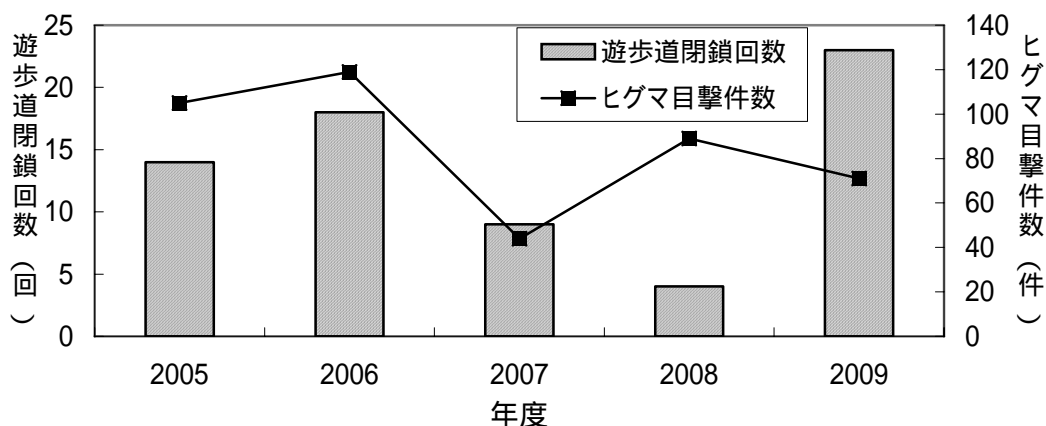


図4. フレペの滝遊歩道でのヒグマ目撃件数と遊歩道閉鎖状況 (2005~2009年度)

c) 羅臼温泉園地歩道

- ・ ヒグマの頻繁な出没により、2007年以降は毎年、臨時閉鎖が発生(歩道は北海道根室支庁が管理)
 - 2007年6月4日～6月14日(11日間)(初閉鎖)
 - 2008年7月20日～7月25日(6日間)
 - 2009年6月19日～7月3日(16日間)

d) 登山道

- ・ 登山道上でのヒグマの目撃は、16-35件/年あり(2005-2009年)。
- ・ ヒグマの目撃は7月から8月にかけて集中。
- ・ ヒグマに進路を塞がれ、大幅にコースタイムが狂う事例が近年増加傾向。
- ・ 日帰り予定で軽装備の羅臼岳登山者が帰路を長時間塞がれると、遭難につながる恐れあり。

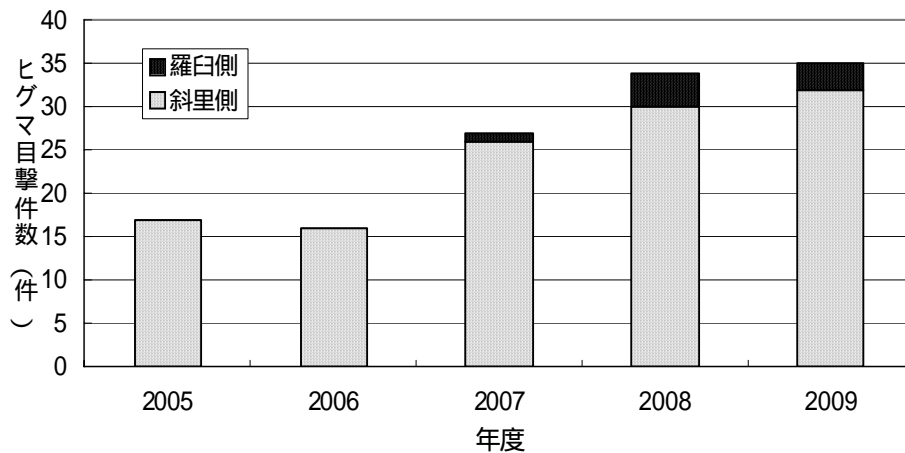


図 5 . 知床連山登山道におけるヒグマ目撃件数 (2005-2009 年) 。羅臼側における 2006 年以前のデータ無し。

e) 知床国立公園とその周辺の道路沿い

- ・ 斜里町の幌別・岩尾別地区では、道路 (国道 334 号線、道道知床公園線) 沿いで年間数百件と多数のヒグマ目撃情報が寄せられる。また、羅臼側では、ルサ相泊地区の道道知床公園羅臼線沿いや、羅臼湖入口から知床峠にかけての国道 334 号線沿いで目撃が多い。
- ・ ヒグマ出没時には、ヒグマの観察や撮影を目的としたカメラマン、観光客が集まり、人だかりができる。撮影のため、ヒグマに接近する者やヒグマを追い回す者もあり、人身事故につながる可能性のある危険な状況が発生。ヒグマへの過度な接近が、ヒグマの人慣れの要因の一つと考えられる。なお、最近、特にルサ相泊地区では、カメラマンの入り込みが増加傾向にある。
- ・ 出没したヒグマは、安全確保と忌避学習付けのため随時追い払っているが、撮影目的のカメラマンなどに活動が理解されない場合もある。

f) サケマス釣り場

- ・ 釣り人との軋轢が発生するのは、斜里町で主に 1 か所 (幌別川) 、羅臼町では主に 4 か所 (二本滝、クズレ滝、ペキン川、モイレウシ川) 。いずれも国立公園内の河川。
- ・ 斜里町の幌別川は車でアクセス可能。年によっては、釣り場への頻繁なヒグマの出没が問題となる。8~10 月には、多数の釣り人が近くの駐車帯にキャンプ、ゴミの投げ捨てや魚の残滓処理など、誘引物の不十分な管理が問題となる。2008 年以降は、8~10 月に駐車帯の閉鎖を実施。過去には、釣り人の荷物がヒグマに持ち去られ、中身の食料を食べられるという事例も発生。
- ・ 羅臼町の 4 か所は、車によるアクセスが不可能な舟 (瀬渡し) で行くマス釣り場。出没状況は年によって異なるが、頻繁な年もある。2007 年には、ペキン川河口の番屋で宿泊していた釣り人の出した残滓などに誘引された単独亜成獣のヒグマを駆除する事例

が発生。道路がなくアクセスが悪いため、頻繁に対応に行けないことも事態を難しくさせている。

g) 羅臼温泉野営場

- ・ 場内でのヒグマ出没のため、下記期間に閉鎖された。根室支庁が応急的に電気柵を設置した2008年秋以降は閉鎖事例なし。
2007年6月4日～6月14日（初）
同年10月16日～10月31日（そのまま冬季閉鎖期間に突入）
2008年7月20日～7月25日（テントに被害あり）

h) ウトロ市街地とその周辺

- ・ ウトロ市街地では2007年に市街地電気柵が稼働を開始。
- ・ 2005年以降、ウトロ市街地におけるヒグマの目撃件数は25件、49件と推移、2007年以降、2-7件で推移し大幅に減少。
- ・ ウトロ市街地におけるヒグマの駆除数は、2005年2頭、2006年4頭と推移、2007年以降は0-1頭で推移。電気柵の稼働開始に伴い、ヒグマの駆除数減少。

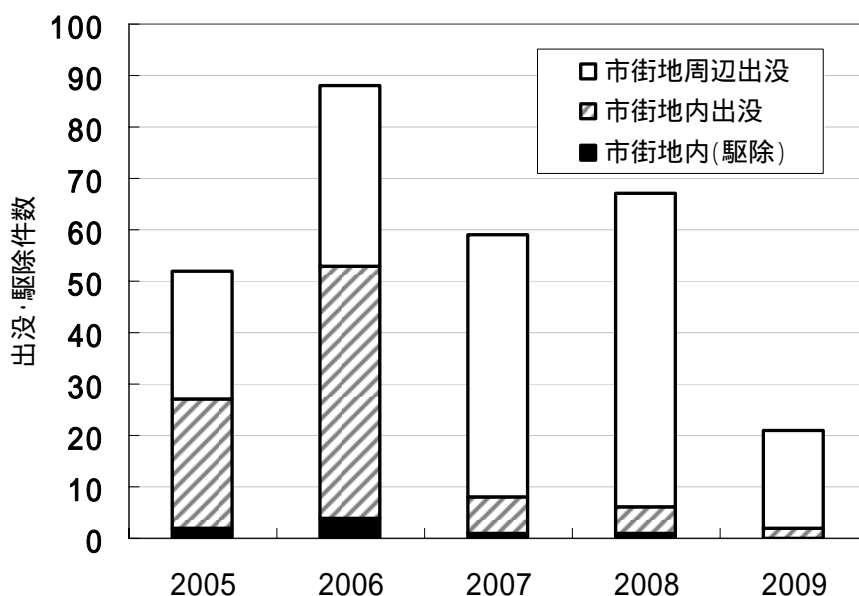


図6. ウトロ市街地周辺における目撃と駆除件数

j) 羅臼市街地中心部

- ・ 羅臼町内で住宅が線ではなく面として最も集中している地区。従来は周辺部への出没が多かったが、2008-2009年に中心部内側への侵入事例が計5件発生。
- ・ 羅臼市街地中心部以外の、海岸沿いに線状に延びた住宅地では、住宅敷地内への侵入事例が頻繁に発生。